



子どもが子どもでいられるように

ヤングケアラーを知っていますか。ヤングケアラーとは、本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことです。責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがあります。

ヤングケアラーとは、例えばこのような子どもたちです。

①



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている

②



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている

③



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている

④



目の離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている

⑤



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている

⑥



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている

⑦



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している

⑧



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている

⑨



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている

⑩



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

家族の手伝い・手助けをするのは「ふつうのこと」と思われるかもしれませんが、でも、学校生活に影響が出たり、こころやからだに不調を感じるほど重い負担がかかっている場合は、注意が必要です。

「自分はヤングケアラーかもしれない」「近くにヤングケアラーではないか気になる子どもがいる」そういった場合は、ひとりで悩まずに相談窓口にご相談・連絡してください。



厚生労働省

ヤングケアラーに関する相談窓口

子育て支援係（子ども家庭総合支援拠点）（☎223-3577）
児童相談所相談専用電話（☎0120-189-783）

芦屋歴史紀行

その三百十六

その時、

芦屋で時代がつくられた⑧
モノノフの時代 鎌倉時代

関東御曹司千寿に關わる
法輪寺銅製経筒

芦屋町山鹿の臨濟宗法輪寺西の谷で、昭和2（1927）年に発掘された、銅製円筒形の経筒がありま
す。筒身に次の銘文86文字が刻ま
れていて、これが山鹿・麻生氏の家系
を考えるうえで一つの手がかりを
与えてくれます。

妙法蓮華経全部八卷
奉為関東御曹司千寿御前
相当一百箇日忌景御為滅
罪生善頓証菩提一日頓写
供養如右

徳治三年正月廿二日

導師 遍照金剛澄空
勧進 遍照金剛皇鑿

母儀菩薩戒尼遍照金剛清浄覚敬白

この銘文の大意は「鎌倉將軍の御
曹司千寿のために、母である清浄覚
という尼が法華経を書き写して供
養した」という主旨です。

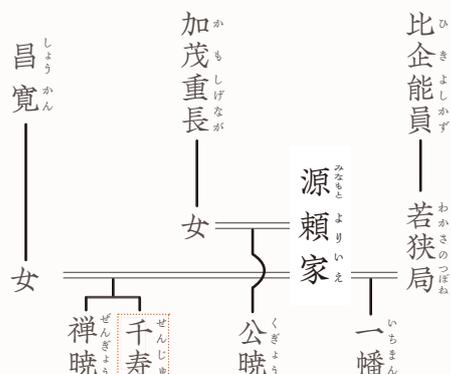


▷法輪寺銅製経筒

千寿とは、鎌倉幕府二代將軍源頼家の子で、和田義盛の乱の残党に担がれ、建保2（1214）年京都で北条氏に討たれた千寿丸栄実（享年14歳）のことと見られています。千寿は、日本に本格的に茶を導入したことで知られる栄西禪師のもとで、栄実の名をいただき、修行していた青年僧で、武家の習いとは縁が遠いはずでした。千寿の母は、頼朝の従軍僧兼右筆の一品房昌寛の娘でした。昌寛はこの山鹿の地を公式に与えられています。この地は千寿にとって縁のある土地だったのです。將軍の座を継ぐ候補になりえたはずの、この薄幸の小公子の菩提を弔うべき、最も近い血縁のひとつが筑前山鹿氏だったのです。

源頼家を中心とした系図

（尊卑分脈などの資料による）



い血縁のひとつが筑前山鹿氏だったのです。

千寿の死後、その母が近親を頼って西下、ここで「一百箇日忌」を営んだのかもしれない。あるいは山鹿氏何代目かの家刀自（婦人）が清浄覚尼であって徳治3（1308）年に遠忌（五十年忌、百年忌など、没後に長い期間を経て行われる年忌）を営んだのかもしれない。

（芦屋歴史の里）

編集後記

▼今年は3年ぶりにあしや花火大会が開催されました。私は芦屋の花火大会は初めてでしたが、ラストの大連発は夜空全体に花火が輝いて幻想的な光景でした。写真を撮る手を止めてしまいたいほど感動的でした。毎日30度を超える日が続き、夏バテや熱中症も心配ですが、体調管理に気をつけて毎日を過ごして欲しいです。（手塚）

▼まちなわだいに掲載した（8ページ）、ふるさとWEBの取材でびびくりしたことがあるのでここで報告させていただきます。テレビ生中継の撮影に吉岡緑化に行った時のこと。炎天下の午後2時、ビニールハウスの温度計は38度超え。これだけでも驚きなのに、ハウスの外の温度計は、人生で見たことがない44・1度でした。ハウスの中にいるほうがホッとするなんてありえない現実。直射日光と照り返しで、ここまで気温上昇したのかもしれないが、ただただ驚くばかりです。証拠の写真を撮りましたので掲載します。まもなく9月

なのに残暑とはほど遠く暦を無視した暑中。絶対に無理をしないように、お願いします。（鉄守）

